



長岡第三小学校・長岡第四小学校施設整備基本構想 検討報告書



令和2年3月
長岡京市

1 はじめに

長岡第三小学校及び長岡第四小学校はそれぞれ、昭和 42 年度、43 年度に開校して以来約 50 年経過している。両校とも耐震改修を行っており、教室等に制限が発生しているばかりでなく、増築や内部改修が困難な状況であるため、近年の給食施設の衛生管理基準に適合させるための改修も不可能であると共に、学校施設のバリアフリー化（エレベータ増築、段差解消等）が同様に困難になっている。合わせて、その他設備等の老朽化も著しく、抜本的な対応が必要な状況となっている。また、長岡第四小学校では、放課後児童クラブの狭あい化、老朽化により早急な対応が必要である。これらの課題に対し、部分的な増築改修の対応では、問題の解決が困難であることから、本基本構想では、長岡第三小学校、長岡第四小学校共に、学校施設全体の改築を前提とした総合的な整備を検討し、今後の施設整備の基本的な考え方及び方向性等を示すものとする。

2 施設整備の課題整理と基本方針

施設整備の課題

<物理的課題>

老朽化

長岡第三小学校は耐震のため、外壁にはたくさんの補強部材や補強プレースが設置され、校舎内部も数多くの補強を行っているが、元の構造部材は老朽化が進み、躯体には多数のクラックが見られ、建具や内壁、設備機器等の老朽化も進んでおり、施設全体として老朽化対策が課題となっている。

長岡第四小学校においても耐震補強がなされているが、躯体は長岡第三小学校同様に老朽化が進行しており、大規模改修を行っているが、経年の劣化が目立つ箇所がある。また、給排水設備について老朽化により衛生上懸念があると共に、北校舎はトイレの洋式化が行われていない等、校舎の各所に機能的な経年劣化がみられる。

また、両校とも給食室は老朽化が進み、現行の衛生管理基準に適合していないが、耐震補強により増築や改修が困難であり、改善を図ることが不可能となっている。

バリアフリー化

長岡第三小学校、長岡第四小学校とも校舎内外の至る所に段差があり、スロープ設置、エレベータ設置等の段差解消が求められている。しかし、両校とも耐震補強により構造的にスロープの設置やエレベータ設置のための開口部を設けることができず、バリアフリー化を図ることが困難となっている。

学校の継続性

建て替え工事中であっても、学校活動は継続して行われる。合わせて、給食の配膳が前提となるため、現状の給食施設を継続利用しながらの建て替えが必要である。

放課後児童クラブの老朽化及び狭あい化

長岡第四小学校敷地内の放課後児童クラブは、建築から 37

年を経過し、長岡京市の放課後児童クラブの中で最も古い施設となっており、屋根や外壁、内装の経年劣化、摩耗が目立つ状況となっている。

また、定員を大きく上回る児童が入会しており、現行の基準面積（児童一人あたり 1.65 m²）を満たしておらず、長岡京市の児童クラブの中で児童一人当たりの面積が最も狭く、早期解消が求められている。

<社会的課題>

学びの質

2018 年に学習指導要領が改訂され、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング^{※1}）」の視点から、何を学ぶだけでなく、どのように学ぶかを重視して授業を進めることが求められている。合わせて学校施設整備指針も改訂され、アクティブ・ラーニングを支援する学校づくりが課題となっている。

※1 アクティブ・ラーニング：学習者が受動的になってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う手法。具体的には教員による一方的な指導ではなく、児童の体験学習や教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークを中心とするような授業のこと。

持続可能な社会の実現に向けて

2015 年には国連で SDG s^{※2} が採択され、持続可能な社会の実現のために行動が求められると共に、同じく 2015 年には建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）が公布され、建築物の省エネ化、ゼロ・エネルギー化を目指す方向となっている。

※2 SDG s : Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。

地域との関係等

学校は、地域コミュニティの核として、様々な人が関わりながら、地域の文化を育ててきたとともに、地域が学校を支えてきた歴史がある。合わせて、震災や地球温暖化による気候変動に対し、学校は被災してもいち早く元の状態に戻る防災力の強い地域の避難所、防災拠点としての機能も求められている。

また、教職員に自らの授業やその人間性、創造性を高め、児童に対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、学校における働き方改革が推進されており、教職員が働きやすい環境・設備の充実が求められている。

これらの課題に対し、施設整備の基本方針を以下のように示す

施設整備の基本方針

課題：老朽化

→長期的な使用を見据えた長岡京市にふさわしい学校施設整備計画

課題：バリアフリー化

→ユニバーサルデザインの学校整備

課題：学校の継続性

→工事期間中も学校活動が継続してできる工事計画

課題：放課後児童クラブの老朽化及び狭あい化

→現行の面積基準を満たし、児童が伸び伸びと活動できる環境整備

課題：学びの質

→児童のアクティブ・ラーニングを支援する施設整備

→ICTを活用しながら、様々な学習形態に対応できる施設整備

課題：持続可能な社会の実現に向けて

→環境に配慮した施設整備

課題：地域との関係等

→地域に開かれ、地域と協働する施設整備

→自然災害に負けない地域の防災拠点の整備

3 新しい学校に求める規模・機能

規模の想定

長岡第三小学校と長岡第四小学校の現在のクラス数を表1、児童数の推移を表2に示す。各校とも児童数は減っているものの、表3、表4の今後の児童数・クラス数予測推移に示すように、長岡第三小学校、長岡第四小学校共にクラス数に大きく増減がないと予想される。そのため、普通教室計12～14クラス、特別支援教室計5クラス、通級教室1クラスを想定し、文科省の基準も考慮した上で、校舎の面積は約6,200㎡、体育館は919㎡、学校給食施設は288㎡、放課後児童クラブ約300㎡、地域約150㎡、プール関連諸室200㎡より、全体で約8,000㎡程度を想定する規模とする。

【表1：現在のクラス数 令和元年5月時点】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	(特別支援) [通級教室]	計
長岡第三小学校	2	3	2	2	2	2	(5) [1]	13 (5) [1]
長岡第四小学校	2	2	2	2	2	2	(3) [1]	12 (3) [1]

【表2：過去の児童数の推移】

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
長岡第三小学校	442	411	393	382	377	383	386	383	397	401
長岡第四小学校	429	431	405	402	375	353	360	362	344	343

【表3：長岡第三小学校 児童数、クラス数予想推移】

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
児童数	384	402	421	423	418	397	374
クラス数	12	13	14	14	14	14	14

【表4：長岡第四小学校 児童数、クラス数予想推移】

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
児童数	342	353	346	340	356	354	337
クラス数	12	12	12	12	12	12	12

学校施設に求める機能

児童の主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を支援する教育環境

- ・調べ学習、グループ学習、発表ができる教室と教室回り
- ・本や情報が身近に感じられるメディアセンター※3の整備

※3 メディアセンター：調べ学習やグループワーク、発表やプレゼンテーションに対応した図書室やコンピュータ室の機能を一体にした部屋のこと。

ICTを活用しながら、様々な学習形態に対応できる教育環境

- ・様々な学習形態に合わせたオープンスペースや多目的スペースの整備
- ・プログラミング教育、PC一人一台を見据えた教室配置

児童が落ち着いて過ごせる生活環境

- ・木を採用した落ち着きのある教室環境
- ・個別に児童の対応ができる相談室のようなスペースの整備

体育、食育を推進できる教育環境

- ・自然が身近に感じられる豊かな屋外環境
- ・給食室の様子がわかる学校施設
- ・家庭科室、ランチルーム、学習農園の連携

環境負荷が小さく、長期的な使用を見据えた教育施設

- ・児童の環境学習にも配慮し、かつ、自然エネルギーを有効に取り入れ、省エネルギーを図りつつ、冷暖房や照明などの機器等設備を効率的に組み合わせることにより、快適な居住環境を確保した学校施設
- ・児童が減少しても他用途に転用がしやすい施設

地域に開かれ、地域と協働し、災害に負けない学校

- ・地域と協働する学校
- ・地域の会議室として機能しながらも、災害時に防災拠点となる施設

教職員が働きやすいゆとりのある職場環境

- ・効率的でゆとりのある職員室等管理諸室の整備

4 各校の検討について

長岡第三小学校、長岡第四小学校とともに東西南北施設配置案を比較（各校の検討事項①参照）する。長岡第三小学校については、長岡第二中学校敷地での建て替えも考慮に入れ、課題の抽出を行う（長岡第三小学校検討事項②参照）。その後、詳細な配置プランにて内容を比較することで今後の施設整備の方針をまとめる（長岡第三小学校検討事項③、長岡第四小学校検討事項②参照）。

長岡第三小学校検討事項①

【東西南北配置案比較表】

	東側配置案	西側配置案
工 期	○ ・ 新築工事がⅡ期に分かれるため、 Ⅰ期工事の案よりも工期が長くなる	○ ・ 新築工事がⅡ期に分かれるため、 Ⅰ期工事の案よりも工期が長くなる
仮設校舎	○ ・ 仮設校舎は必要ないが、 仮設放課後児童クラブが必要	○ ・ 小規模だが仮設校舎が必要となる
工事期間中の 学校への影響	○ ・ 体育館の使用不可期間が発生する ・ 工事区画を明確に分けることができる ・ 新築工事が既存校舎に近接しないため、騒音、振動による学校運営への影響が少ない	○ ・ 体育館は継続して使用できる ・ Ⅱ期工事期間中の新校舎、仮設校舎から既存体育館への動線が長くなる ・ 既存校舎に近接して新築工事が行われるため、騒音、振動について課題がある
近隣への影響	△ ・ 東側民家に対して配置を後退しても、民家が学校敷地境界に近接しているため、学校活動上の騒音の課題が残る	○ ・ 民家のある西側前面道路沿いに校舎を建てるが、道路を挟んでいるので影響は少ない
西側前面道路 からのアクセス	△ ・ 西側前面道路から奥まった位置に新校舎が建設されるため、門から校舎入口までの距離が長くなる	○ ・ 西側前面道路から校舎入口まで距離が短い
長岡第二中学校 との連携	△ ・ 長岡第二中学校から遠く、連携はしづらくなる	○ ・ 長岡第二中学校と近接しており連携しやすい
埋蔵文化財 との関係	× ・ 敷地東側に重要な窯跡の遺構があり、 保存が必要となる可能性が高いため、 校舎の計画に影響が発生する	○ ・ 敷地西側に対して埋蔵文化財調査が必要 ・ 新たな重要な遺構の発見は低いと考えられる
工事費	○ ・ 仮設放課後児童クラブ施設が必要となる	△ ・ 小規模な仮設校舎が必要となる
その他	・ 整備したばかりの放課後児童クラブの建て替えが必要	
総合評価	× (埋蔵文化財の影響が大きい)	◎

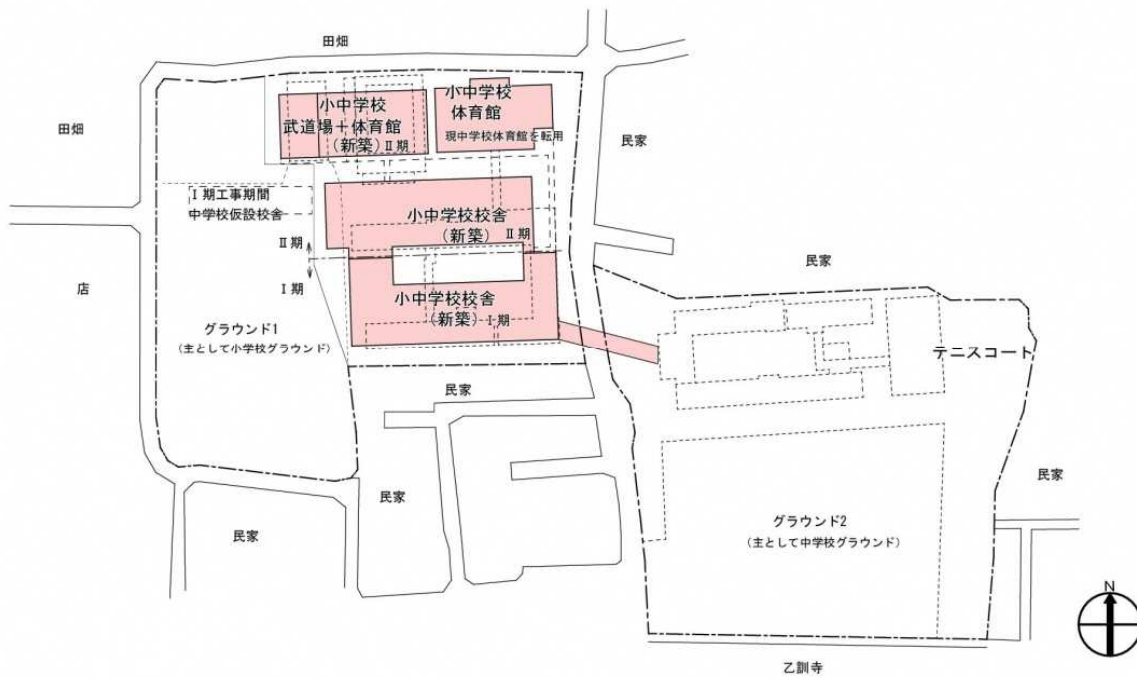
南側配置案	北側配置案
◎	△
・新築工事がⅠ期で可能なため、他配置案よりも工期は短くなる	・新築工事がⅢ期に分かれるため、他配置案よりも工期が長くなる
○	△
・仮設校舎は必要ないが、仮設放課後児童クラブが必要	・大規模な仮設校舎が必要となる
○	△
・体育館は継続して使用できる ・工事期間中グラウンドが狭くなるが、工事区画を明確に分けることができる ・新築工事が既存校舎に近接しないため、騒音、振動による学校運営への影響が少ない	・体育館の使用不可期間が発生する ・児童動線と工事車両動線について配慮が必要 ・既存校舎に近接して新築工事が行われるため、騒音、振動について課題がある
○	○
・南側はほぼ乙訓寺に面しているため、民家への影響は少ない	・北側民家へ対し、現校舎よりも南側へ後退して配置し、西、東、南側に対しては現状と変わらないため、影響は少ない
○	○
・西側前面道路から校舎入口まで距離が短い	・西側前面道路から校舎入口まで距離が短い
△	○
・長岡第二中学校から遠く、連携はしづらくなる	・長岡第二中学校と近接しており連携しやすい
×	◎
・敷地南側に重要な乙訓寺の講堂跡があり、保存が必要となる遺構の範囲が広いため、校舎の計画に多大な影響が発生する	・現校舎建設時の影響から遺構が残っている可能性は低いと、新たな重要な遺構の発見の可能性は非常に低い
○	△
・仮設放課後児童クラブ施設が必要となる	・仮設校舎が必要となる
・整備したばかりの放課後児童クラブの建て替えが必要	
×	○
(埋蔵文化財の影響が大きい)	

長岡第三小学校検討事項②

【長岡第二中学校敷地内配置案比較表】

	長岡第二中学校敷地内 小学校別棟配置案
特 徴	・施設の共用が図れる（プールを小中で共用することも可） ・現在の小中各々の学校運営やカリキュラムを維持できる ・長岡第三小学校における遺構に影響を受けずに建設できる
工 期	・小学校校舎工事と中学校体育館＋武道場及びプール工事のⅡ期の工事となる ・概算工期：39ヶ月 想定新築延べ床面積：約8,500㎡（小学校校舎、中学校体育館＋武道場、中学校プール）
工事費	・小学校校舎、新築中学校体育館＋武道場及びプールの建て替え費が必要となる
小学校運営への影響	・小学校校舎工事中は、中学校敷地での工事のため、小学校への影響はない ・中学校体育館工事期間中は現中学校体育館を中学校と兼用する必要がある
中学校運営への影響	・小学校校舎工事中は、中学校敷地での工事のため、グラウンド使用に制限がかかる ・工事期間中の中学校グラウンドの利用について、長岡第三小学校グラウンドの活用が必要がある ・中学校体育館工事期間中は現中学校体育館を小学校と兼用する必要がある
埋蔵文化財との関係	・小学校校舎位置は重要な遺構が発見される可能性は低い ・中学校体育館＋武道場の位置は現建物位置であれば、遺構が残っている可能性が低く、調査の範囲が狭まる
近隣への影響	・小学校校舎位置の周囲は田畑のため、特に大きな影響はない ・中学校体育館＋武道場の位置は現小学校校舎位置であり、現校舎よりも南側に後退して配置するため、近隣への影響は少ない
小中連携等について	・小学校校舎と中学校校舎が別棟で分かれるため、長岡第二中学校の校区となる長岡第七小学校、長岡第十小学校と長岡第三小学校との小中連携内容に違いが生じないよう配慮ができる

長岡第二中学校敷地内 小学校・中学校施設一体型案



- ・老朽化が進む中学校施設に合わせ、効率的に施設整備が図れる
- ・新しい小中連携の取組みに挑戦できる
- ・長岡第三小学校における遺構の影響を受けずに建設できる

- ・小中学校校舎建設と武道場体育館工事でⅡ期の工事となり、Ⅲ期工事でグラウンド2工事が必要
- ・概算工期：77ヶ月 想定新築延べ床面積：約14,500㎡（小中学校校舎、小中学校体育館＋武道場）

- ・仮設中学校校舎費、小中学校校舎及び体育館＋武道場、グラウンド2の整備費が必要となる
- ・小学校と中学校校舎で特別教室等共用により、校舎延べ床面積を効率化することは可能

- ・小中学校校舎工事中は、中学校敷地での工事のため、小学校への影響はほとんどない

- ・Ⅰ期小中学校校舎工事中は、現中学校校舎に近接して工事が行われるため、騒音、振動の課題がある
- ・Ⅰ期工事期間中、仮設中学校校舎と現中学校校舎の動線が長くなる
- ・Ⅱ期工事中も、Ⅰ期小中学校校舎に近接して工事が行われるため、騒音、振動の課題がある
- ・小中学校校舎及び体育館＋武道場の位置は、現建物位置と同位置のため、遺構が残っている可能性が低く、調査の範囲が狭まる

- ・長岡第二中学校敷地における工事が主となり、新小中学校校舎及び体育館＋武道場の位置は、現建物位置と同位置のため、近隣への影響は現状と変わらない
- ・現長岡第三小学校敷地はグラウンド2（主として中学校グラウンド）となるので、近隣への影響は少ない
- ・施設が一体となるため、長岡第三小学校と長岡第二中学校が小中連携、小中一貫等、新しい教育を行える可能性があるが、長岡第二中学校の校区となる長岡第七小学校、長岡第十小学校と長岡第三小学校との小中連携内容に違いが生じることについて検討が必要

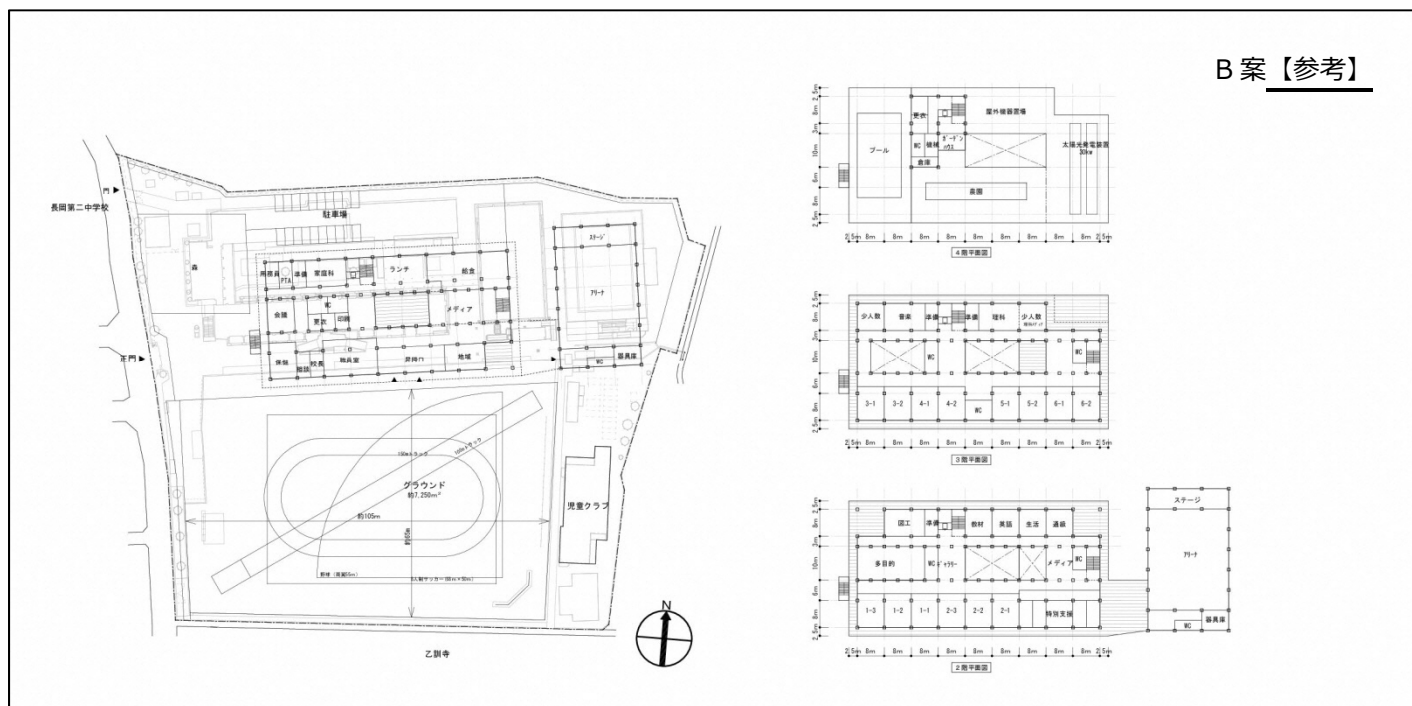
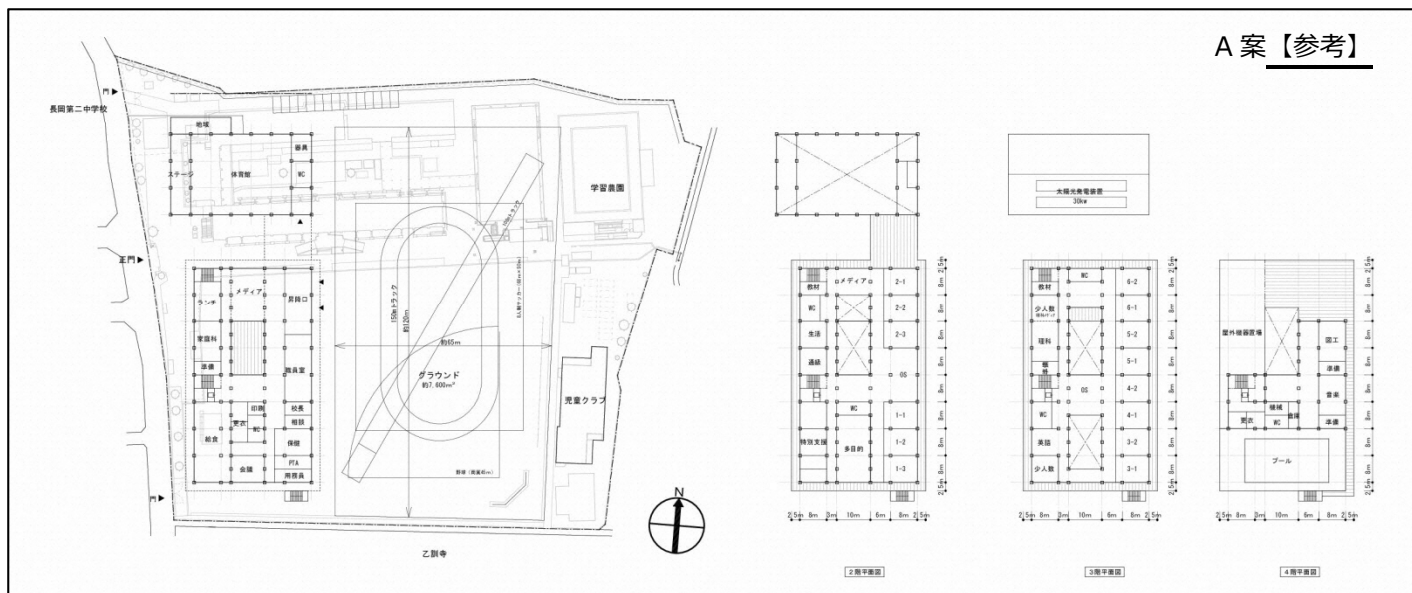
長岡第三小学校検討事項③

東西南北配置案比較検討より、東側配置案及び南側配置案については重要な遺構の保存の問題、長岡第二中学校配置案は、中学校の活動に大きく制限が発生するため、現実的には課題が多い。そのため、西側配置案、北側配置案について詳細参考プランを作成し、評価項目を再整理し、比較検討を行う。（詳細参考プランは西側配置案、北側配置案の計画内容、工事計画等を考慮し見直したものであり、各案の比較を行うための参考プランである）

【西側配置、北側配置詳細参考プラン 比較表】

評価項目	A 案(西側配置詳細参考プラン)	B 案(北側配置詳細参考プラン)	評価基準
校舎とグラウンドとの関係性	-	○	・グラウンド、校舎それぞれの 日当たり ・職員室・普通教室の向き
	校舎の影が一部グラウンドに落ちる 職員室、普通教室ともグラウンド側に配置	校舎の影がグラウンドに落ちない 職員室、普通教室ともグラウンド側に配置	
工期	-	-	・工期の長さ ・ステップの単純さ
	建設と解体を繰り返して整備(約 47 ヶ月)	建設と解体を繰り返して整備(約 47 ヶ月)	
工事期間中の学校への影響	○	-	・工事期間中の動線計画 ・騒音、振動の問題 ・引越しの回数、規模
	大規模な引越しが1回、 小規模な引越しが1回必要	大規模な引越しが2回発生する 現況校舎に近接して新校舎を建設するた め、騒音、振動の問題あり	
グラウンド面積・形状	○	-	・グラウンドの形状、面積 100mトラック、8人制サッカー コート、野球場がとれるか
	現況グラウンドと同等の面積確保 7600 m ² 整形 100mトラック、8人制サッカーコート、野球場 がとれる	現況グラウンドより面積減 7250 m ² 整形 1100mトラック、8人制サッカーコート、野球場 がとれる	
近隣への影響	-	○	・近隣住民への騒音・圧迫感
	西側民家へ近くなるため配慮が必要	北側民家より遠くなる	
プール使用への影響	○	-	・工事中、プールが使用で きるか
	使用不可期間なし	使用不可期間あり	
駐車場の位置(近隣への影 響等)	-	-	・駐車場位置 ・車両動線 ・歩車分離
	北側民家に近接しているが、歩車分離ができ ている	北側民家に近接しているが、歩車分離ができ ている	
給食搬出入	○	-	・通行する道路 ・サービスヤード位置 ・児童動線との分離
	特に支障はない	校舎解体工事期間中の給食動線の確保	
現放課後児童クラブ活用	-	-	・現放課後児童クラブ活用の 可否
	継続利用可	継続利用可	
埋蔵文化財の発掘調査	-	○	・発掘調査及び遺構保存の 可能性
	校舎側で発掘調査を行う必要がある 発掘調査で遺構がでてきた場合は保存のため 設計変更の可能性あり 校舎南東側については講堂跡にかからない ように注意が必要	現況校舎・体育館の位置については発掘調 査が不要 現プール位置については調査が必要となる 可能性あり	
長岡第二中学校との連携	-	-	・長岡第二中学校に近く、 施設を用いた活用が可能か
	長岡第二中学校側に交流スペースをとること が可能	長岡第二中学校側に交流スペースをとること が可能	
工事費	○	-	
	仮設校舎は不要	A 案+3 億円(仮設校舎分)	
総合評価	○	-	

※優位のものに○、同位は－で表示。



5 まとめ（長岡第三小学校）

長岡第三小学校については、老朽化や給食室の環境改善、バリアフリー化について、早急な対応が求められるが、埋蔵文化財の乙訓寺の遺構を考慮しつつ、長岡第二中学校の校区内の他の小学校との関係も踏まえた小中併設型のモデル構築の検討を行い、慎重にプラン計画をしていく必要がある。A案、B案に加え、長岡第二中学校敷地活用案も含め、今後、方向性について協議を進める。その上で、埋蔵文化財の調査時期、設計・施工時期を決定していくこととする。

長岡第四小学校検討事項①

【東西南北配置案比較表】

	東側配置案	西側配置案
工 期	○ ・ 新築工事がⅡ期に分かれるため、Ⅰ期工事の案よりも工期が長くなる	△ ・ 新築工事がⅢ期に分かれるため、他配置案よりも工期が長くなる
仮設校舎	◎ ・ 仮設校舎は必要ない	○ ・ 仮設校舎は必要ないが、仮設放課後児童クラブが必要
工事期間中の学校への影響	○ ・ 工事期間中グラウンドが狭くなる ・ プール使用不可期間なし	△ ・ 工事期間中グラウンドへの影響は小さい ・ 新体育館工事期間中の新校舎と既存体育館の動線が長くなる ・ プール使用不可期間あり
近隣への影響	◎ ・ 敷地東側に民家がないため、周囲に対する影響は少ない	△ ・ 近接する西側民家に対して、対面して校舎が建つため、学校教育活動の騒音等の課題がある
敷地内の高低差への配慮	○ ・ 新体育館と新校舎の床高さに差がでる可能性があるが、外構工事に対応可能	△ ・ 新校舎1階で床高さに差が発生する可能性がある
埋蔵文化財との関係	◎ ・ 長岡競馬場時代の観客席にあたる箇所であり、建設時の影響から遺構が残っている可能性が低く、試掘のみの可能性あり	○ ・ 現校舎建設時の影響から、遺構が残っている可能性は低い
工事費	○ ・ 仮設校舎、仮設放課後児童クラブは不要	△ ・ 仮設放課後児童クラブが必要
その他	・ 先に放課後児童クラブのみを整備するのは困難	・ 仮設放課後児童クラブが必要であり、先に放課後児童クラブのみを整備するのは困難 ・ 新校舎が現放課後児童クラブの出入口にかかり、距離をとるとグラウンドが狭くなる
総合評価	○	△

南側配置案	北側配置案
◎	△
・新築工事がⅠ期で可能なため、他配置案よりも工期は短くなる	・新築工事がⅢ期に分かれるため、他配置案よりも工期が長くなる
◎	△
・仮設校舎は必要ない	・大規模な仮設校舎が必要となる ・仮設放課後児童クラブが必要になる可能性あり
△	△
・工事期間中グラウンドが非常に狭くなる ・プール使用不可期間なし	・工事期間中グラウンドへの影響は小さい ・既存校舎に近接して新築工事が行われるため、騒音、振動について課題がある ・児童動線と工事車両動線について配慮が必要 ・プール使用不可期間あり
△	△
・西側民家に対しては大幅に後退することにより、距離がとれるが、南側民家に対して、市道を挟んで校舎が近接して建つため、学校教育活動の騒音等の課題がある	・西側民家へ対し、現状校舎よりも東側へ後退するため、北、東、南面への影響は少ない ・体育館は西側民家に対し対面するため、学校教育活動の騒音等の課題がある
○	○
・新体育館と新校舎の床高さに差は発生しないが、グラウンドの高さ調整が必要	・新体育館と新校舎の床高さに差がでる可能性があるが、外構工事で対応可能
○	○
・敷地南側は埋蔵文化財の調査が行われていないため、調査が必要だが、新たな重要な遺構の発見は低い	・現校舎建設時の影響から、遺構が残っている可能性は低い
○	△
・仮設校舎、仮設放課後児童クラブは不要	・仮設校舎が必要となる
・先に放課後児童クラブのみを整備するのは困難だが、体育館と合わせれば可能	・仮設校舎が必要であり、先に放課後児童クラブのみを整備するのは敷地内では困難 ・新体育館が現放課後児童クラブの出入口にかかり、距離をとるとグラウンドが狭くなる
○	△

長岡第四小学校検討事項②

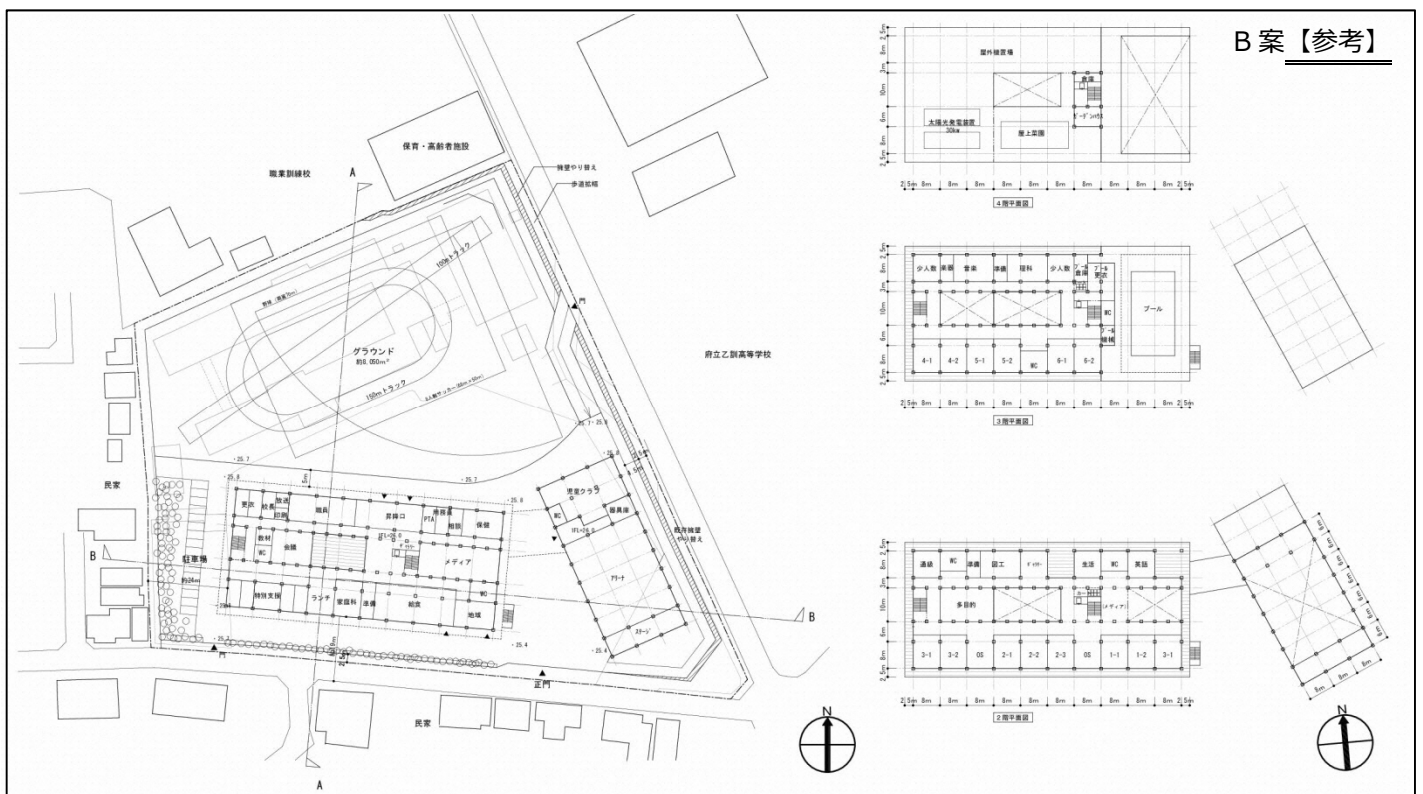
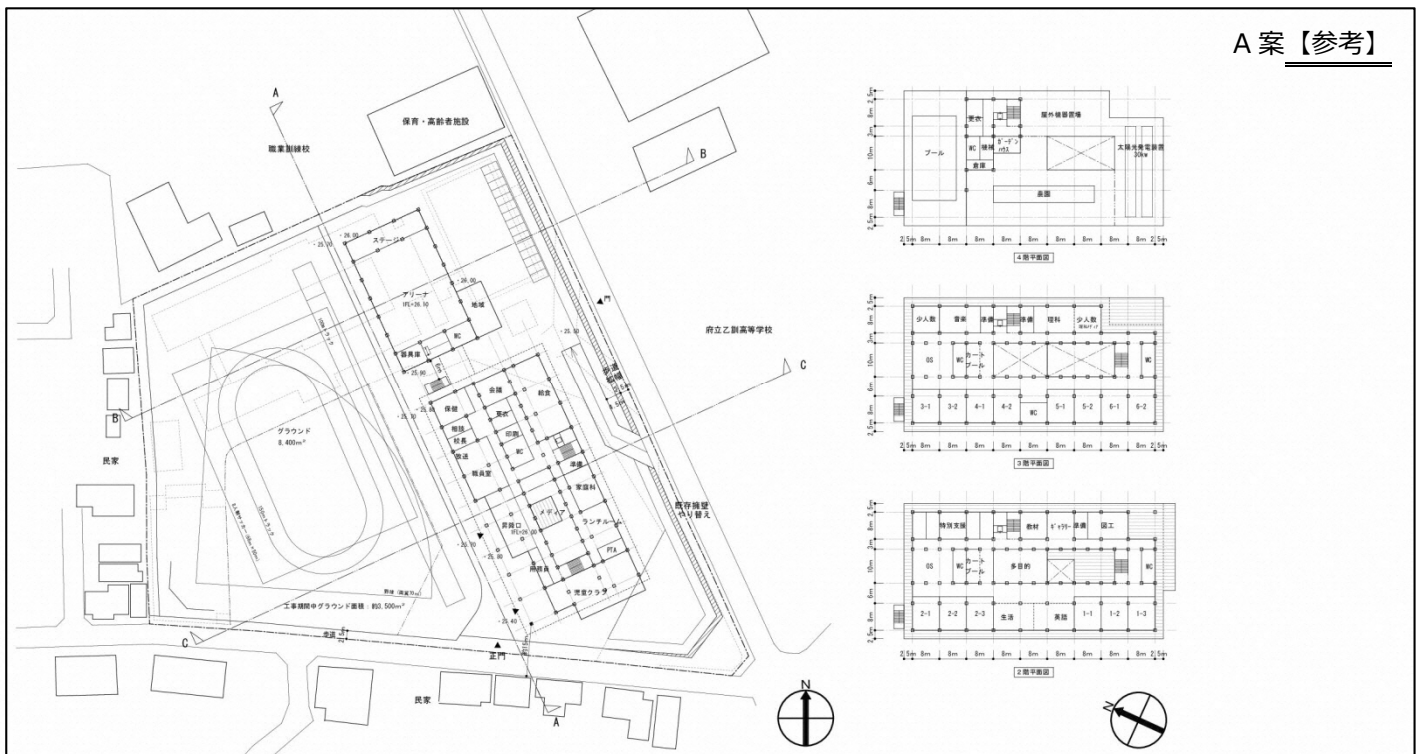
東西南北配置案比較検討より、北側配置案及び西側配置案については工事期間の長さや西側民家への影響が大きく、現実的には課題が多い。そのため、東側配置案、南側配置案について詳細参考プランを作成し、評価項目を再整理し、比較検討を行う。(詳細参考プランは東側配置案、南側配置案を計画内容、工事計画等を考慮し見直したものであり、各案の比較を行うための参考プランである)

【東側配置、南側配置詳細参考プラン 比較表】

評価項目	A 案(東側配置詳細参考プラン)	B 案(南側配置詳細参考プラン)	評価基準
校舎とグラウンドとの関係性	○		・グラウンド・校舎それぞれの日当たり ・普通教室の向き
	午前中グラウンドに校舎の影が落ちる 普通教室がグラウンドに面するのは南西向	冬季に校舎の影がグラウンドに落ちる 普通教室がグラウンドに面するのは北向	
工期	○		・工期の長さ ・ステップの単純さ
	校舎・体育館に分けて工事を行う必要がある 体育館改築工事が現況校舎解体後となり、 工期が長くなる (約 42 ヶ月)	工期を分けずに校舎、体育館が建設可能 (約 36 ヶ月)	
工事期間中のグラウンド使用範囲	○		・工事期間中運動場の大きさ
	工事期間中の運動場面積が B 案に比べ、 大きい(工事期間中グラウンド:約 3,500m ²)	工事期間中の運動場面積が A 案に比べ、 小さい(工事期間中グラウンド:約 1,600m ²)	
グラウンド面積	-	-	・グラウンド面積の大きさ 100mトラック、8 人制サッカーコート、 野球場がとれるか
	約 8,500m ² 100mトラック、8 人制サッカーコート、 野球場がとれる	約 8,040m ² 100mトラック、8 人制サッカーコート、 野球場がとれる	
近隣への影響	○		・近隣住民への騒音・圧迫感
	校舎のほとんどが民家に近接していない	南面・西面の民家に近くなるため、配慮が必要	
プール使用への影響	○		・工事期間中、プールが使用できるか
	プール使用不可期間なし	プール使用不可期間あり	
敷地の高低差による影響	-	-	・段差が校舎内部に発生するか ・段差が校舎－体育館の間に発生するか
	体育館と校舎に段差が生じるがスロープでつながる	校舎、体育館間の段差は生じない	
駐車場の位置(近隣への影響)	○		・駐車場位置 ・車両動線 ・歩車分離
	民家が少ない北東側に配置可能 歩車分離ができる	西側民家に近接 一部歩車分離ができない	
給食搬出入	○		・通行する道路 ・サービスヤード位置 ・児童動線との分離
	東側道路を使用 登下校動線への影響は少ない	正門を設ける南側道路を使用 登下校動線との交差に懸念がある	
放課後児童クラブ	○		・校舎と独立して設置可能か ・工事の早い段階で使用可能か
	校舎内での放課後児童クラブ設置となる 独立して設ける際は設置場所が課題となる	放課後児童クラブと体育館を先行して建設することが可能	
埋蔵文化財の発掘調査	○		・発掘調査の可能性
	東側は競馬場の観客席跡であったため、 試掘調査のみとなる可能性がある	校舎側で発掘調査を行う可能性が高いが、 新たに重要な遺構発見の可能性は低い	
工事費	-	-	
	A、B 案とも同程度	A、B 案とも同程度	
総合評価	○		

※優位のものに○、同位は－で表示。

放課後児童クラブについて、A 案、B 案とも仮設校舎を使わない施設整備を目指しており、敷地内において工事区画外となるスペースが少なくなるため、放課後児童クラブ独立建物の先行整備は、スペースの確保が困難であり不可能である。校舎建物と合わせた整備であれば、敷地内で効率的に整備できると判断した。



5 まとめ（長岡第四小学校）

長岡第四小学校については、老朽化、設備や給食室の衛生上の問題や放課後児童クラブの狭あい化解消のために早急な対応が必要である。A 案、B 案を比較検討した結果、近隣への影響が最も少ないことを重視して A 案（東側配置）とし、令和 2 年度より設計を進め、令和 4 年度を目処に工事着手を目指す。

